

22PO-am407

基礎的なアカデミック・ライティングと課題解決能力を育成する授業デザインの実践

○中越 元子¹, 内手 昇¹, 池田 ゆかり¹, 木藤 聡一¹, 倉島 由紀子¹, 武本 眞清¹,
畑 友佳子¹ (北陸大薬)

【目的】本年度の基礎ゼミⅡでは、物理系・化学系・生物系薬学諸領域の課題を解決する目的で各分野の教員からパフォーマンス課題が順次提示され、学生たちは内化と外化を繰り返して課題解決を行い、その成果をレジュメやレポートとして表現するための基礎的なアカデミックライティングの学習プログラムが展開された。今回、このプログラムの授業デザインの紹介と学習成果について報告する。

【方法】第1週は課題解決に向けてのSGD後、調査内容の振り分けを行った。次週までに各人がその内容をレジュメにまとめ、発表用スライドを作成した。第2週はチーム内個人発表および質疑応答(3分/人)、ピアレビューを実施後、調査内容の精査・分析・統合についてSGDを行った。第3週は全体発表に向けたパワーポイントによるポスター作成と課題に対する2000字以上のレポート作成が課せられた。第4週は全員が発表者となるポスターセッション(12分/人)、ピアレビューを実施した。以上1フェーズ8コマの授業が3回繰り返された。

【結果・考察】回を重ねるごとに成果物のレベルは向上しており、リフレクションシートの記載にも学生自身の変容ぶりが表れていた。また、4件法による学習成果に関する自己達成度は高く、「できた」、「とてもよくできた」が97.5%であった。また、到達目標の10項目に関しても、ほとんどが90%以上を示していた。

この学習プログラムは、ライティングのみならず学生の自己学習を基にチームの一員として能動的に討論・情報の収集・整理・分析・統合を行い、チーム内でのコンセンサスを形成しながら課題解決する力の醸成やコミュニケーション力を身につけることにも役立つと考えられる。この授業デザインを上級年次にも展開し、本学の学生の資質・能力の育成に繋げたい。